

姉妹都市交流のあゆみ

※文化・スポーツ団体分は除く

昭和54年8月

内灘町長が羽幌町を訪問。羽幌町長ほか内灘出身者と懇談・交流。

昭和54年9月

羽幌町長、羽幌町議会総務常任委員長らが内灘町を訪問。将来にわたって友好の絆を深めることが話題に。

昭和55年3月

羽幌町の加賀獅子(獅子頭)が内灘町で補修される。

昭和55年4月

内灘ライオンズクラブと羽幌ライオンズクラブが姉妹クラブを提携。

昭和55年10月

羽幌町で姉妹都市提携調印式。



調印を記念して内灘町長から鷹の置物が贈られる。

昭和56年2月

羽幌内灘交友会が結成。

昭和60年5月

内灘町へオンコ300本を贈呈(内灘町庁舎・公共施設周辺へ植樹)

平成2年7月

姉妹都市提携10周年記念式典並びに祝賀会が羽幌町で行われる。内灘町長・内灘町議会議長ら一行21名が羽幌町を訪問。

平成9年6月

羽幌町開基100年の祝いのため内灘町長・町議会議長が羽幌町を訪問。

平成12年7月

姉妹都市提携20周年記念式典並びに祝賀会が内灘町で行われる。羽幌町長・羽幌町議会議長ら一行18名が内灘町を訪問。



式典で式辞を述べる舟橋町長

平成14年1月

内灘町制施行40周年記念式典に出席するため羽幌町長・羽幌町議会議長が内灘町を訪問。



内灘町役場1階町民ホールで行われた和太鼓合同演奏会。朝から練習に励んだ甲斐もあり、本番では多くの内灘町民を魅了しました。



兼六園のシンボルとして知られる二本脚の「徹軒灯籠」をバックに記念撮影。



風情のある石川県内の街並み

文化・体育を通じた姉妹都市交流 羽幌オロロン太鼓の会が内灘町を訪問

昭和58年に内灘町柔道スポーツ少年団が来町したのを皮切りに平成5年から始まった文化体育交流事業。今年「羽幌オロロン太鼓の会」を打ち手代表・岩崎幸治さん(を交流団体として訪問団)教育委員会引率者2名を含む総勢24名)を結成し、7月31日から8月3日までの日程で内灘町を訪問しました。

まず一行は夕食会に出席。八十出町長や西尾教育長らから歓迎を受けたほか、自己紹介のほかに、滞在中の思い出を絵手紙に書き留めたり、日本三名園の一つで国の特別名勝に指定されている「兼六園」などの見学、金箔工芸の体験など、本町と関わりの深い地域の歴史や文化にふれました。



参加者全員がこの夏の体験を絵手紙に記しました。

羽幌町と石川県内灘町との結びつきは、明治20年に捕鯨やニシン漁に従事するため内灘から大勢の人々が羽幌を訪れたことから始まりました。その後も付き合いは続き、昭和55年10月1日に姉妹都市提携の調印。以来、教育や文化産業など幅広い分野にわたって交流を深めてきました。

そして今年姉妹都市提携30周年を迎える記念の年。8月9日には内灘町から八十出泰成町長や北川進町議会議長をはじめ15名の訪問団が来町し、はばる温泉サンセットプラザで記念式典が行われました。本町からは舟橋町長、橋本町議会議長、羽幌内灘交流会のみなさんなど35名式典に出席。両町長の式辞や歓迎・訪問のことは、記念品交換を通して両町のさらなる発展と末永い交流を誓いました。

また、式典に続いて行われた祝賀会では、約60年ぶりに赤・青両獅子が登場した今年の羽幌神社祭の映像が上映されたほか、羽幌加賀獅子保存会が加賀獅子舞を披露。和やかな雰囲気にもまれたまま親睦を深めました。

翌日は、海鳥センターやピオトープ公園を見学した後、天売島や焼尻島を視察。夜の行政懇談会でまたの再会を約束して、11日の早朝、羽幌町を後にしました。



石川県内灘町

DATA

石川県の中央部、日本海と河北潟の間に位置する典型的な海岸砂丘地帯。町域には山や河川がなく、平均標高20mの砂丘のまちです。現在は「暮らしやすさNo.1」をめざし、協働のまちづくり、子ども支援の充実、エコタウン構想を進めています。(人口 26,828人 22年7月末現在)

Congratulations
羽幌町・内灘町

姉妹都市提携30周年

昭和55年に姉妹都市提携を結んでから今年で30周年を迎えます。これまで、文化・スポーツ団体をはじめとしたさまざまな交流を通して友好の絆を確認してきました。締結30周年を記念して行われた式典や、今年の交流のようすをご紹介します。

